
信子クエスト

瘋癲口ッカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
信子クエスト

【Nコード】
N7426C

【作者名】
瘋癲ロツカー

【あらすじ】
そして主婦信子は旅立った…真の自由を手にするために。

信子は生まれてこの方、一度も自分の意志というもので行動をしたことがない。

四十五歳を迎える今日という日まで、自由という権利を行使したことがなかった。

否、正確にいうと自由を放棄していたという方が適当だろう。

両親にも、夫にも、息子に対しても、彼らが求める行動を取り、必要とあらば自分が我慢をしても彼らに尽くすことが、信子にとって一番楽な日常の過ごし方であった。全ての行動の指針は、周囲が決定してくれる。後はその敷かれたレールの上を、ただ進むのみ。楽で仕方がないのだ。

両親が望む習い事に通い、両親が望む大学にも進学した。両親が勧める企業に就職し、現在の夫にも出逢った。

夫が望む家庭を作り、夫の同僚や部下の前では、職場という戦場で戦う夫を健気に支える妻の姿を好演した。

息子が欲しがるものは全て与え、アメリカに絵の勉強をしに行きたいと言いつせば、仕送りの不足分を捻出するため、慣れないパートへも出たりした。

正に、日本の古き良き妻の在り方、専業主婦の模範と称されるに相応しいその姿は、実は信子自身が、楽な生き方をし続け、自由を放棄してきた結果なのである。

だが、四十五歳を迎える今日という日、信子は初めて「自由」という扉を開けようとしている。

自らの意志と責任において、今まさに行動をとろうとしているのだ。

「貴方、今日までありがとうございました。別れてください……」

最近の主婦の楽しみといえば、やはり韓流ドラマ。甘ったるい男

女に次々と襲いかかる不幸。涙、実らない恋…

信子はどうも好きになれないでいた。設定の不自然さが許せないからだ。表情、セリフの全てが機械的だし、どうにも腑に落ちないのが、これでもか、これでもかと泣かせようとする厚かましが気に入らないのだ。

そんな信子の唯一の楽しみは、息子がプレゼントしてくれたポータブルゲームだ。「たまには息抜きにやってみなよ。」といって渡されたロールプレイングゲーム。これが実に楽しいのだ。

魔王を倒すという唯一の、しかしはつきりとした目標のために、好きな仲間を選び、好きな武器防具を身に付けて、過酷な旅に自ら立ち向かっていく。信子は、ゲームの主人公が羨ましくて仕方がなかった。なんて自由なのだろう。彼には危険を冒す自由があるのだ。いつの頃からか、信子は主人公の姿に自分の生き方を重ねるようになっていった。

私も、今からでも遅くない。自由に生きることが出来るのではないか？そんな思いを断ちがたい日々が続いた。

そこで、信子は決心した。四十五歳の誕生日を機に、自由を謳歌してみようじゃないかと。

夫は、鳩が豆鉄砲を喰らったように、ただ茫然としていた。というよりも、突然の予期せぬ言葉に、状況を理解することが出来ないでいるようだ。

「別れるって…おい…何かしたいことでもあるのか？」

ただたどしい言い回しで、聞きたいことも判らず口について出た質問に対して、信子は躊躇うことなくはっきりと答えた。

「旅がしたいの。自由な旅が。」

「…旅って、毎年行ってるじゃないか。この間も熱海に…」

夫は、理解不能な状況を飲み込むのに苦しんでいた。

「ううん、旅行じゃないの。冒険を試みたいのよ。何かに挑戦してみたいのよ。だから、お願い。別れてください。」

信子の意志は固かった。夫がダメだといっても旅に出るつもりでいた。

寝室には、荷造りしたキャリーケース。準備は万端なのだ。初めて、家庭という鳥籠から飛び立って、大きな空を自由に飛び回ろうとしているのだ。もう、誰にも信子を止めることは叶わないのだ。

「で、これからどうするつもりなんだ…」

諦めにも似た声色で夫がそう訪ねると、信子は希望に満ちた瞳を見開いて、朗らかに答えた。

「そうね、この街には王様がないから、かわりに市長に会いに行くわ！」

「…市長？」

「そう！その後、酒場に行って仲間を捜すわ。つぼ八？白木屋がいかしら？高田延彦のような格闘家と、瀬戸内寂聴さんのようなお坊様を見つけるつもりよ。」

「……………さ…かば？」

夫はもはや理解するどころか、立ち上がることもすらまならない。信子は続ける。

「嗚呼！とてもワクワクするわ！予算もないし、当面の武器はこの包丁で充分よね！」

窓から差し込む夕日は、テーブルに置かれた真っ白なポータブルゲームを朱く染めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7426c/>

信子クエスト

2010年12月31日05時38分発行